

お米を作れなくなる未来が、 くるかもしれない。

私たち生産者にとっては、「ようやく農業に希望が持てる価格になった」というのが本音。正直、ホッとしています。一方で、意図しないところで小売価格が高騰していることは、本意ではありません。

私たちには、お米をこれからも美味しく育て、みなさんにお腹いっぱい食べてもらいたい、という想いがあります。お米は日本の主食だから、できれば生活の負担にならない価格で届けたい。

近年の物価高により、世の中のあらゆるモノやサービスが私たちの生活に大きな影響を与えています。

農業も例外ではなく、肥料や燃油などの生産資材が値上がりしている上、異常高温や大雨・台風被害などが続き、経営は苦しくなっています。

それにもかかわらず、「お米は手頃な価格で食べてほしい」という想いから、お米の価格はほとんど変わってきませんでした。

これは、生産コストがお米の価格に転嫁されていないことを示しています。

生産者がどれだけ頑張ってお米をつくっても、その努力が報われない。

そんな状況がこのまま続けば、この先お米の生産を続けていくことが困難になります。

お米の価格は、たしかに高くなりました。だけどそれは、お米づくりを続けていくために必要なことなのです。

お米づくりのこれからの、少しでも想いをめぐらせてほしい。

お米が食べられない未来なんて、 くるはずがない。

「ここ数年で、光熱費、ガソリン、世の中のあらゆるモノの価格が上がってる。
まず一番に節約を考えたのが食費。特に、お米の値上がりはかなりイタイ。
毎日食べる主食なんだから、安く買えるのが普通だと思ってた。
お米は栄養バランスが良いし、どんなおかずにも合うから、育ち盛りの子どもには、毎日ご飯を食べさせたいのに。」

「お米の価格が上がったから買わない。もっと安くするべき。」
そんな風に考える人が出てきても不思議ではありません。
しかし、よく考えてみてください。現在の価格でも、お茶碗1杯で50円前後。
その価格は、パンやパスタと比べて本当に高いと言えるのでしょうか？

お米は私たち日本人にとっての主食、お米は日本の毎日を支える力の源です。
しかし、そのお米も食べられる量が減れば、生産量も減っていきます。
生産量が減れば、いま当たり前前に食卓に並んでいるお米も、いずれは食べられなくなってしまうかもしれません。

だからこそいま、お米の適正な価格を理解してもらいたい。
当たり前前に食卓に並ぶお米ひとつぶひとつぶの先にある、生産者の工夫と努力を少しだけ想像してみてください。
高くなったからと言って敬遠せず、もっと食べることで、お米の未来は守れるはずですよ。